

科目名	空港実務 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	河野 浩一
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	エアラインのグループ企業にて グランドハンドリング業務に従事
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程)						
授業概要	空港地上支援業務従事者としての基礎知識の習得						
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					航空用語を理解し、業界人としての会話ができる	
	○	○				ITV・CPMを見て、到着の情報を把握し、機材等の準備ができる	
	○	○				LIを見て、出発情報を把握し、必要な搭載方法を判断できる	
	○					重量管理を理解し、搭降載作業での安全作業を説明することができる	
	○					BULK機材の作業を理解し、作業の手順を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版 パワーポイントなど各プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	前期の振り返りと貨物室(CARGO COMPARTMENT)					
	2	整備業務(Marshalling・Towing・Wing Watch作業)①					
	3	整備業務(Marshalling・Towing・Wing Watch作業)②					
	4	整備業務(Marshalling・Towing・Wing Watch作業)③					
	5	グランドハンドリングの概要(航空用語ITV)①					ITVの用語の復習を行う(0.5時間)
	6	グランドハンドリングの概要(航空用語ITV)②					
	7	グランドハンドリングの概要(航空用語LI&CPM)①					LI・CPMの用語の復習を行う(0.5時間)
	8	グランドハンドリングの概要(航空用語LI&CPM)②					授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
	9	理解度テスト					
	10	Weight & Balance(重量)					各重量について復習を行う(0.5時間)
	11	Weight & Balance(安定飛行)					授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)
	12	Weight & Balance(プランの方法・優先)					
	13	搭載・取り卸し作業①					
	14	搭載・取り卸し作業②					
	15	理解度テスト					
評価方法	(1)授業中での口頭質問 (2)授業の中で理解度テストを実施 (3)定期試験の実施 以上を、以下の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	理解度テスト(筆記／2回)	◎	○				20%
	授業中の質問	◎			○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	国内航空貨物									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		鈴木 毅剛	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		空港運営会社における貨物取扱業務	
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程)									
授業概要	物流における航空貨物の重要性を理解し、航空貨物業界の現場に対応出来る専門知識を習得する									
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					現場業務に必要な航空専門用語の意味や内容を理解し、説明出来る				
	○					貨物ハンドリングの概要を理解し、説明が出来る				
	○					航空輸送における安全の意識や重要性を理解し、説明ができる				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	物流について								
	2	航空貨物について								
	3	国内貨物について								
	4	ユニットロードデバイス(ULD)の種類と機能について								
	5	貨物の流れについて								
	6	特殊貨物について								
	7	ウェイト&バランス、航空機搭載許容重量について								
	8	航空危険物について(基礎編)								
	9	安全教育(航空機事故事例)								
	10	安全教育(ヒューマンエラー)								
	11	安全教育(KYT)								
	12	物流を取り巻く環境について								
	13	今後の航空業界について(ディスカッション)								
	14	総合演習								
	15	総合確認及びテスト対策								
評価方法	・授業内での小テスト1回実施予定 ・定期試験 以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			◎		○		50%		
	小テスト			◎		○		50%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない									

科目名	航空品質管理 I												
科目名(英)													
単位数	1単位			時間数		15時間		担当者		河野 浩一			
実施年度	2023年度			実施時期		後期		担当者実務経験		エアラインのグループ企業にて グランドハンドリング業務に従事			
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年												
授業概要	空港地上支援業務従事者として、安全運航に関する意識・感性・手法を学びイレギュラー回避能力を向上させる。												
授業形態	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標							
	○					航空業界での「安全」の考え方を理解し、安全に関しての重要性を説明することができる							
	○					事故のメカニズムと要因、また事故防止の概要を理解し、説明することができるようになる							
		○				危険予知トレーニングの必要性と手法を理解し、4RD分析が実施できるようになる							
テキスト・教材 参考図書	「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版 パワーポイントなど各プリント資料												
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示				
	1	安全管理一般①							授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)				
	2	安全管理一般②							授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)				
	3	安全管理一般③							授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)				
	4	機体付近の安全・高所作業の安全・消火器①							授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)				
	5	機体付近の安全・高所作業の安全・消火器②							授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)				
	6	KYT(危険予知トレーニング)①											
	7	KYT(危険予知トレーニング)②											
	8	授業全体の振り返り 理解度テスト											
	9												
	10												
	11												
	12												
	13												
	14												
15													
評価方法	(1)グループワーク (2)授業の中で理解度テストを実施 (3)定期試験の実施 以上を、以下の観点・割合で評価する。												
				言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験			◎									70%
	理解度テスト(筆記／1回)			◎		○							10%
	グループワーク(2回)			○		◎				◎			20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。												

科目名	航空危険物						
科目名(英)	Transport of Dangerous Goods by Air – Initial as per the IATA Dangerous Goods Training Guidance 7.4						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	川嶋 英信	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	国際航空貨物業務を35年経験	
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程) エアポート科 2年						
授業概要	この授業は、Competency-Based Training and Assessment(CBTA)のアプローチに基づき、IATAが設計した危険物教育訓練プログラムに従い実施する。対象は、危険物航空貨物の上屋内・ランプでの取り扱い、航空機での搭降載に責任を有する担当者向けである。IATAの国際資格の取得を目指す授業である。						
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				危険物航空貨物に関する基礎的な知識の習得	
		○				危険物航空貨物搭載の事前準備	
		○				航空貨物および手荷物の輸送	
		○				危険物航空貨物に係る事故や事象などの報告	
				○		上記の4目標を達成し、IATA危険物教育訓練プログラム7.4の修了証明書を取得する	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル・テキストを配布する。 参考図書: 航空危険物規則書第64版IATA発行JACIS邦訳2023年版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 航空貨物輸送における危険物の取り扱い					
	2	危険物の基礎 危険物の適用				練習問題の解答による復習	
	3	危険物の基礎 危険物の制限				練習問題の解答による復習	
	4	危険物の基礎 荷主と運航者の役割・責任				練習問題の解答による復習	
	5	危険物の基礎 危険物の分類				練習問題の解答による復習	
	6	危険物の基礎 危険物の包装				練習問題の解答による復習	
	7	危険物の基礎 危険物のマーキング				練習問題の解答による復習	
	8	危険物の基礎 危険物のラベリング				練習問題の解答による復習	
	9	危険物の基礎 危険物の緊急対応				練習問題の解答による復習	
	10	貨物搭載前の管理 積み込み要件				練習問題の解答による復習	
	11	貨物搭載前の管理 隔離、分離、貨物室制限				練習問題の解答による復習	
	12	貨物搭載前の管理 航空機への搭載の準備				練習問題の解答による復習	
	13	航空貨物および手荷物の輸送				練習問題の解答による復習	
	14	危険物に係る事故の報告				練習問題の解答による復習	
	15	IATA資格取得のための試験対策				NCA Japan社e-learning受講と修了試験	
評価方法	1) 授業後に宿題として練習問題を課す。 2) 期末定期試験を実施する。 上記の結果を次のとおり評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	宿題・レポート	○	○		◎		50%
履修上の注意	出席率が規定に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	第三級陸上特殊無線技士											
科目名(英)												
単位数	0単位		時間数		8時間		担当者		外部講師			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年 エアポート科(1年課程)											
授業概要	電波法及び無線工学を学習し、電気通信の理解度を深める。合わせて第三級陸上特殊無線の国家資格を取得することを目指す											
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					電波法令の目的(用例の概要、用語の定義)の説明をすることができる						
		○				無線従事者が知っておくべき内容と役割を認識し、それを説明することができる						
		○				無線工学(電気の基礎、半導体、回路計算など)を理解し、応用することができる						
		○				第三級陸上特殊無線技士に合格することができる						
テキスト・教材 参考図書	第三級陸上特殊無線技士用(法規・無線工学)標準教科書 一般情報通信振興会											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	養成講座受講										
	2	養成講座受講										
	3	養成講座受講										
	4	養成講座修了試験										
	5											
	6											
	7											
	8											
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
15												
評価方法	講座を修了し、修了試験に合格した者は評価「R」とする。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	修了試験		○									100%
履修上の注意	出席が6時間に満たない場合は、修了試験の受験資格は与えない。											

科目名	TOEIC対策 I C						
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I C						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	和田 菜穂	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年						
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。						
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。	
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞在場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト完全攻略リーディングVol1、2、メガ模試TOEIC、Listening Box for TOEIC、TOEIC書き込みドリル 文法編650、はじめてのTOEIC模試、Vocabulary for Economics, Management, and International Business他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	導入、夏休み明け復習テスト				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	2	TOEIC対策 リスニング(OL)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	3	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(品詞)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	4	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(代名詞)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	5	TOEIC対策 リスニング(OL)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	6	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(比較)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	7	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(形容詞)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	8	TOEIC対策 リスニング(OL)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	9	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(副詞)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	10	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(時制)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	11	TOEIC対策 リスニング(OL)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	12	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(態、コロケーション)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	13	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(不定詞、動名詞)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	14	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(接続詞)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。	
	15	定期試験					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC(IP)	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定2級対策 I C						
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I C						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	岡本 彩
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務 (留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年						
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することとは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。						
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)	
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)	
	○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)	
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)	
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション					
	2	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	英検模試①				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	英検模試②				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	英検本試験解説				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	試験対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	試験				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定準2級対策 I C						
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I C						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	中山 久豪
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年						
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信すること は大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格を 目指す。						
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえること ができる。(読む)	
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。 (書く)	
	○	○				電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることがで きる。(聞く)	
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、 短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)	
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	4	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	5	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	6	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	7	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	8	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	9	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	10	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	11	英検模擬試験				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	12	英検模擬試験				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	13	英検本試験解説				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	14	英検本試験解説				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	15	授業内正試験				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	TOEIC対策 ID										
科目名(英)	TOEIC Test Strategies ID										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		和田 菜穂		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		外資系航空会社にて客室乗務員として勤務		
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年										
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるAレベル・TOEIC860点以上のスコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。										
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・International Herald Tribune」、「Financial Times」等一般的な国際英字新聞の記事を読んで、大まかに理解できる。 ・会議の議事項目(アジェンダ)を読んで理解できる。					
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・ラジオのニュース番組で、最初にアナウンサーが言う主なニュース項目を理解できる。 ・自分の専門分野での発表やプレゼンテーションを聞いて理解できる。					
	○	○				社会性のある話題について書くことができる。(書く) ・今後取引先となりそうな相手に対して、自社製品を紹介・売込みのためのEメールやレターを書くことができる。 ・FAX、E-mailでホテルの予約ができる。					
	○	○				英語の履歴書を作成することができる。(書く)					
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト完全攻略リーディングVol1、2、メガ模試TOEIC、Listening Box for TOEIC、TOEIC書き込みドリル 文法編650、はじめてのTOEIC模試、Vocabulary for Economics, Management, and International Business他										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	TOEIC対策 Part5 &Part6 文法(接続詞)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	2	TOEIC対策 Part5 &Part6 文法(前置詞)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	3	TOEIC対策 リスニング(OL)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	4	TOEIC対策 Part5 &Part6 文法(関係詞)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	5	TOEIC対策 Part5 &Part6 文法(語法)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	6	TOEIC対策 リスニング(OL)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	7	TOEIC対策 Part5 &Part6 文法(語法)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	8	TOEIC対策 Part5 &Part6 文法(語法)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	9	TOEIC直前模擬試験 Q&A					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	10	TOEIC対策 Part7実践問題					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	11	TOEIC対策 Part7実践問題					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	12	TOEIC対策 リスニング(OL)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	13	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	14	TOEIC対策 リスニング(OL)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	15	TOEIC対策 Part7実践問題					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	16	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	17	中間テスト(TOEIC)②									
18	TOEIC対策 Part7実践問題					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。					

	19	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	20	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	21	TOEIC対策 Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	22	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	23	TOEIC直前模擬試験 Q&A	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	24	Merry X'mas Entertainment					
	25	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	26	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	27	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	28	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	29	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	30	定期試験対策 学期総括					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを中間(10月)、学期末に実施する。(12月実施) 評価方法は730点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを複数回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○		○		5%
	Cover letter & Resume提出	◎	○				5%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定2級対策 I D				
科目名(英)	EIKEN Test Test Strategies I D				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本 彩
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)					
事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			
	2	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	25	英検模試①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	英検模試②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	英検模試解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	英検模試解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	英検模試解説					
	30	後期のまとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定準2級対策 I D									
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I D									
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		中山 久豪	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		塾講師、英語講師	
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年									
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。									
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)				
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)				
	○	○				電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)				
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)				
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション								
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	4	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	5	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	6	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	7	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	8	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	9	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	10	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	11	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	12	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	14	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	15	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	16	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	17	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	18	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	19	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	20	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
	21	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)					予習、復習を行って授業に臨むこと。			
22	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)					予習、復習を行って授業に臨むこと。				

	23	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	24	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	25	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	26	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	27	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	28	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	29	TOEIC Part5、リスニング(Part2, 3, 4)				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	30	授業まとめ				予習、復習を行って授業に臨むこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B				
科目名(英)	General English I B				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本 彩
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	高校英文法をひとつひとつわかりやすく 基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、前期の復習(品詞・5文型)			
	2	前期の復習(品詞・5文型)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	前期の復習(品詞・5文型)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	態①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	態②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	態③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	態④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	態⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	態⑥			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	態確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	分詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	分詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	分詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	分詞④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	分詞確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	不定詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	不定詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	不定詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	不定詞④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	不定詞⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	不定詞確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	動名詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	動名詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	動名詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	動名詞確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3) 授業内で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B				
科目名(英)	General English I B				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	野々村 賢一
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	英語講師22年
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、前期復習			
	2	前期復習			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	3	句という塊: 準動詞 不定詞の名詞的用法			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	4	不定詞の形容詞的用法・副詞用法			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	5	不定詞、3用法のまとめとその他の用法 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	6	不定詞のまとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	7	動名詞の説明①			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	8	動名詞の説明②			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	9	動名詞の実践練習 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	10	不定詞・動名詞まとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	11	分詞の説明①			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	12	分詞の説明②			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	13	分詞の実践練習 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	14	不定詞・動名詞・分詞のまとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	15	分詞構文の作り方と説明①			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	16	分詞構文の作り方と説明②			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	17	分詞構文の実践練習			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	18	準動詞 まとめテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	19	関係代名詞とは? 関係代名詞ができるまで①②③			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	20	関係代名詞 練習問題			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	21	関係代名詞 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	22	準動詞と関係詞のまとめテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	23	関係副詞の説明			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	24	関係代名詞と関係副詞の問題 非制限用法			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	25	関係代名詞のwhat 複合関係代名詞			予習、復習を行って授業に臨むこと。

	26	複合関係副詞	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	27	関係詞のまとめの問題	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	28	これまでのまとめまとめ①	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	29	これまでのまとめ②	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	30	期末対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B				
科目名(英)	General English I B				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	未定
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。また、TOEIC Part5・7問題演習を通じ、品詞と5文型の知識を実践する。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	自己紹介／5文型とは／第二文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	第三文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	第一文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	第四文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	第二文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	第三文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	第一文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	第四文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	五文型 確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1) 定期試験（筆記）を実施する。 (2) 学内でTOEIC（IP）検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC（IPテスト）	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B				
科目名(英)	General English I B				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	未定
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語の基本となる品詞と5文型を正しく使用し、より複雑な英文を作成できるようになる。、品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことで、検定取得や会話力向上に必要な英語の運用能力を高める。				
授業形態	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	英文法トレーニングノートα、英文法・作文トレーニングノートα、英文法トレーニングノートβ				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	クラス概要の説明、前期の復習（品詞、文型、不定詞と動名詞）			
	2	分詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	分詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	比較①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	比較②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	比較③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	比較④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	態①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	態②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	態③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	態④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	関係詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	関係詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	関係詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	関係詞④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	関係詞⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	関係詞⑥			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	関係詞⑦			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	仮定法①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	仮定法②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	仮定法③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	仮定法④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	仮定法⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	仮定法⑥			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	分詞構文①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	26	分詞構文②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	27	分詞構文③	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	分詞構文④	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	分詞構文⑤	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	後期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点、400点未満を70点とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B				
科目名(英)	General English IB				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山 久豪
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなく文として理解するためには、品詞と五文型についての知識習得が必要である。英文を作るルール(英文法)の基本となる品詞と五文型を学び、ルールの理解を深める。また、名詞・動詞についての知識を深め、より正確に自身の言いたいことを表現できるようになることを目標とする。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	総合英語プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	プレイスメントテスト 振り返り			
	2	オリエンテーション、品詞と五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	第一文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	第一文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	第二文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	第二文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	第三文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	第三文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	第四文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	第四文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	第五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	第五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	五文型まとめ			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	名詞と代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	名詞と代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	一般動詞とbe動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	一般動詞とbe動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	三人称単数現在の動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	三人称単数現在の動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	助動詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	態	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	態	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	自己紹介文 作成	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	後期まとめ					
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) TOEIC (IP) 検定試験を4月、8月に実施する。 評価方法は700点以上取得で100%、650点以上で95%、550点以上で90%とする。それ以下も取得点数により評価に反映する。 (3) 小テストを実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S (90点以上)・A (80点以上)・B (70点以上)・C (60点以上)・D (59点以下) とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IP) 検定試験	◎	○				20%
	小テスト	◎	○		○		20%
履修上の注意	英単語の品詞がわかる辞書にアクセスできるようにすること。 また、出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	English Conversation I B									
科目名(英)	English Conversation I B									
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		未定	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	Airline 1									
授業概要	1. Raise students' English proficiency 2. Give students more confidence in using English 3. Workplace related English skills									
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					Raise students' English proficiency				
	○					Give students more confidence in using English				
	○					Workplace related English skills				
テキスト・教材 参考図書	Speakout Elementary Book1									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	Get to know your teacher					none			
	2	1.1 Nice to meet you					Preview lesson materials and review previous lesson			
	3	1.2 Travel Light					Preview lesson materials and review previous lesson			
	4	1.3 Can I Have a Coffee?					Preview lesson materials and review previous lesson			
	5	Teacher's Lseeon or 1.4 Fawltly Towers (needs TV/DVD)					Preview lesson materials and review previous lesson			
	6	1.5 Lookback /teacher's lesson					Preview lesson materials and review previous lesson			
	7	2.1 Join Us					Preview lesson materials and review previous lesson			
	8	2.2 High Flyers					Preview lesson materials and review previous lesson			
	9	2.3 What Time Does It Start?					Preview lesson materials and review previous lesson			
	10	Teacher's Lesson or 2.4 Chalet Girl (needs TV / DVD)					Preview lesson materials and review previous lesson			
	11	2.5 Lookback / Teacher's lesson					Preview lesson materials and review previous lesson			
	12	3.1 Just Good Friends					Preview lesson materials and review previous lesson			
	13	3.2 Big Happy Families					Preview lesson materials and review previous lesson			
	14	Review and Practice for Speaking Test					Preview lesson materials and review previous lesson			
	15	Speaking Test					Review previous lesson material			
評価方法	Students evaluation: (1) Test – 50% (2) Class participation – 25% (3) Attendance – 25 % The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験 Semester End Exam		○	○		○		50%		
	小テスト In-class Tasks		○	○		○		50%		
履修上の注意										

科目名	空港インターンシップA											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		80時間		担当者		平田 かおり			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		国内航空会社にて国際線グランドスタッフとして勤務			
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年											
授業概要	実際に空港に於いてグランドハンドリング業務を体験し、専門知識や技能を身に付け、社会人としての意識の定着を図る。											
授業形態	講義:		演習:		実習: ○		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
			○			職場における敬語表現を身に付け、実際に使うことができる						
			○			業界用語を学び、それを使ってコミュニケーションをとることができる						
			○			就業規則を遵守し、社会人としての行動をとることができる						
			○			個人情報や社外秘の取扱について理解し、各企業のルールに沿って業務を行うことができる						
			○			自ら仕事を見つけ、率先して行動することができる						
テキスト・教材 参考図書	関連資料のプリント											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	実習前準備 自己紹介シートの作成										
	2	実習前研修① 身だしなみや心構え						プリントを事前に読んでお(0.5時間)				
	3	実習前研修② 業界用語の確認						プリントを事前に読んでお(0.5時間)				
	4	実習前研修③ 挨拶、緊急時の連絡方法						プリントを事前に読んでお(0.5時間)				
	5	各企業でのインターンシップ										
	6											
	7											
	8											
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)事前研修時に2レター、3レター、業界用語の確認テストを実施 (2)報告書 以上を下記の観点・割合で評価する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	確認テスト	○		◎								50%
	報告書の提出	○						◎				50%
履修上の注意	事前研修時に実施する確認テストで9割以上正解できない場合は、インターンシップに参加出来ない。											

科目名	空港インターンシップB										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		80時間		担当者		平田 かおり		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		国内航空会社にて国際線グランドスタッフとして勤務		
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年										
授業概要	実際に空港に於いてグランドハンドリング業務を体験し、専門知識や技能を身に付け、社会人としての意識の定着を図る。										
授業形態	講義:		演習:		実習: ○		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
			○			職場における敬語表現を身に付け、実際に使うことができる					
			○			業界用語を学び、それを使ってコミュニケーションをとることができる					
			○			就業規則を遵守し、社会人としての行動をとることができる					
			○			個人情報や社外秘の取扱について理解し、各企業のルールに沿って業務を行うことができる					
			○			自ら仕事を見つけ、率先して行動することができる					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	各企業でのインターンシップ									
	2	各企業でのインターンシップ									
	3	各企業でのインターンシップ									
	4	各企業でのインターンシップ									
	5	各企業でのインターンシップ									
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)事前研修時に2レター、3レター、業界用語の確認テストを実施 (2)報告書 以上を下記の観点・割合で評価する。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	確認テスト	○		◎						50%	
	報告書の提出	○						◎		50%	
履修上の注意	事前研修時に実施する確認テストで9割以上正解できない場合は、インターンシップに参加出来ない。										

科目名	一般教養 I B							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	瀧口 恵子	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科 1年							
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の企業の採用試験に解答できる能力の養成を目指す。							
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					漢字検定準2級程度の漢字の読み書きができる		
	○					数学問題の解法を理解し、正確に解答することができる		
	○					英検準2級程度の問題に解答することができる		
	○					日本をはじめとした主要国の地理や政治において基礎的な内容を把握し説明できる		
テキスト・教材 参考図書	プリント							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	シラバス説明、時事ニュース				次回学習部分に目を通しておく(0.5時間)		
	2	ROUND11: 漢字の知識、国際組織、英単語の知識				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	3	ROUND12: 英文和訳、国税・地方税、漢字の知識、歴史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	4	ROUND13: 四字熟語、社会保障制度、各国の貿易 ROUND14: 方程式、各国の歴史、英語(単・熟語の知識)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	5	ROUND14: 社会(政治・経済) ROUND15: 漢字の知識、英語(単・熟語の知識、並べ替え)、国会について						
	6	ROUND11～15 確認テスト				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	7	ROUND16: 漢字の知識、歴史、図形の面積・体積				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	8	ROUND17: 日本語・英語のことわざ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	9	ROUND17: 歴史、英文和訳、文学史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	10	ROUND18: 経済、名数、短歌・俳句				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	11	ROUND19: 漢字の知識、英単語の知識、人口の推移				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	12	ROUND20: 漢字の知識、英文補充、歴史				次回の確認テストの準備として時事ニュースについて考えをまとめておく(0.5時間)		
	13	ROUND16～20 確認テスト				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	14	ROUND11～20 まとめ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)		
	15	後期試験範囲確認と対策				試験範囲の部分の復習(1.5時間)		
評価方法	(1)定期試験 (2)確認テスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合で評価をする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎			○		80%	
	確認テスト	◎			○		10%	
	出席状況				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	SPI対策 I D									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	瀧口／中山／合力／松藤			
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)									
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。				
		○				計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。				
		○				四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。				
テキスト・教材 参考図書	「最新最強のSPIクリア問題集 24年度版」(成美堂出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	仕事算、損益算、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	2	場合の数、確率、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	3	分割払いと割合、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	4	推論①、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	5	推論②、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	6	推論③、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	7	後期前半のまとめ					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	8	■中間テスト								
	9	図表の読み取り①、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	10	図表の読み取り②、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	11	模擬試験問題①、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	12	模擬試験問題①、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	13	模擬試験問題②、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	14	模擬試験問題②、四則逆算					テキストの該当部分の復習(0. 5時間)			
	15	後期後半のまとめ、後期試験対策								
評価方法	(1)定期試験 (2)中間テスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合かで評価をする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			◎		○		80%		
	中間テスト			◎		○		10%		
	出席状況					○		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	SPI対策 I E							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	瀧口／中山／合力／松藤	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)							
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。							
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○				前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。		
		○				計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。		
		○				四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。		
テキスト・教材 参考図書	「最新最強のSPIクリア問題集 24年度版」(成美堂出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	仕事算、損益算、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	2	場合の数、確率、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	3	分割払いと割合、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	4	推論①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	5	推論②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	6	推論③、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	7	後期前半のまとめ				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	8	■中間テスト						
	9	図表の読み取り①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	10	図表の読み取り②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	11	模擬試験問題①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	12	模擬試験問題①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	13	模擬試験問題②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	14	模擬試験問題②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	15	後期後半のまとめ、後期試験対策						
評価方法	(1)定期試験 (2)中間テスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合かで評価をする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験		◎		○		80%	
	中間テスト		◎		○		10%	
	出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	SPI対策 I F							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	瀧口／中山／合力／松藤	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科 1年 エアポート科(1年課程)							
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。							
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○				前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。		
		○				計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。		
		○				四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。		
テキスト・教材 参考図書	「最新最強のSPIクリア問題集 24年度版」(成美堂出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	仕事算、損益算、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	2	場合の数、確率、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	3	分割払いと割合、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	4	推論①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	5	推論②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	6	推論③、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	7	後期前半のまとめ				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	8	■中間テスト						
	9	図表の読み取り①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	10	図表の読み取り②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	11	模擬試験問題①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	12	模擬試験問題①、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	13	模擬試験問題②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	14	模擬試験問題②、四則逆算				テキストの該当部分の復習(0. 5時間)		
	15	後期後半のまとめ、後期試験対策						
評価方法	(1)定期試験 (2)中間テスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合かで評価をする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験		◎		○		80%	
	中間テスト		◎		○		10%	
	出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	キャリアデザイン I B						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	平田 かおり
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	国内航空会社にて国際線グランドスタッフとして勤務
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年						
授業概要	① 東京研修振り返り発表会において、各グループで協力し合って資料を作成し、プレゼンテーションする。 ② 就職試験に向けた必要な準備の仕方を学び、期限内に必要な行動をとることができる。 ③ 求職票を提出し、求職票受付面接に合格することができる。 ④ 就職活動のための業界・職種研究に取り組み、情報収集の仕方について学び、実践することができる。						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		東京研修振り返り発表会にて、資料作成をし発表することができる。	
				○		就職試験に向けた準備の仕方を理解し、必要な準備を期限内にすることができる。	
		○		○		求職票を提出し、求職票受付面接に合格することができる。	
			○	○		就職面接時の立ち居振る舞い、発言方法の基本を理解し、行動できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動準備期の過ごし方/後期委員会決め					
	2	就職活動幹旋規定/求職票受付面接概要/自己PR作成				求職票の書き方を復習しておくこと。(1時間)	
	3	求職票の書き方/業界・職種への志望動機作成				求職票の下書きをすること。(1時間)	
	4	1・2年生交流会				質問内容を事前に準備すること。(1時間)	
	5	自己PR作成/求職票の書き方				自己PRとして活用できる自身のエピソードをまとめておくこと。(1時間)	
	6	就職実務 ― 求職票受付面接でよく聞かれる質問集を確認				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	7	就職実務 ― 自己PRの作成(自己PRのメインテーマを考える)				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	8	就職実務 ― 自己PRの作成(テーマに合うエピソードを考える)				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	9	就職実務 ― 面接練習の受け方・入退室の確認				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	10	面接練習 ― 自己PR				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	11	面接練習 ― 志望動機				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	12	面接練習 ― 自身の強みについて				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	13	求職票受付面接				指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	14	就職実務 ― 就職活動スケジュール、活動ルールの確認					
15	就職実務 ― 企業説明会の受け方、質問の仕方の確認						
評価方法	(1)求職票受付面接の可否 (2)作文を提出する (3)就職関連の提出物を数回課す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		○		40%
	求職票受付面接		○		○		40%
	作文				○		10%
履修上の注意							

科目名	就職実務							
科目名(英)								
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	平田 かおり	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	国内航空会社にて国際線グランドスタッフとして勤務	
対象学科・学年	エアライン科(グランドハンドリングコース)1年							
授業概要	エントリーシート・履歴書作成時の注意点や対面・オンライン面接の受け方、WEBテスト受験などについて学ぶ。その後、受験を希望する業界・職種に応じて書類作成準備や面接指導を行っていく。							
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○		○		適切なマナーや立ち居振る舞いで面接を受けることができる		
		○		○		効果的なエントリーシートや履歴書を作成することができる		
		○		○		筆記試験やWEBテストの問題形式を把握し、時間内に問題を解くことができる		
				○		周囲と情報共有を行ない、面接練習に向けて主体的に準備をできる		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	2	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	3	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	4	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	5	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	6	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	7	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	8	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート添削)				受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物・発表					◎		100%
履修上の注意								